

第9号議案	社会資本整備総合交付金事業(道路改築)	着工年度	平成29年度
	主要地方道 <small>たかさき かんな ちちぶ やた</small> 高崎神流秩父線(矢田工区) <small>たかさき</small> 高崎市	評価理由	事業費の増額

1. 事業の目的

- 主要地方道高崎神流秩父線は、高崎市街地と吉井ICを結ぶ幹線道路である。
- 現道は人家連坦地区や商業施設等を通過しているため、朝夕の通勤時間帯で慢性的な渋滞が発生しており、円滑な交通に支障をきたしている。
- このため、交通容量が不足した現道の交通をバイパスへと転換し、周辺道路の渋滞緩和を図るとともに、地域間のアクセス向上や物流の効率化等を目的として事業を実施したものである。



現道区間(渋滞状況)



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	<small>たかさき よしいまち いわさき たかさき よしいまち やた</small> 高崎市吉井町岩崎～高崎市吉井町矢田	
区分	事前評価(H23)	今回
全体事業費	6,000百万円	8,500百万円
全体事業費増減の理由	-	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁基礎の変更に伴う増額 機能補償道路の追加に伴う増額 埋蔵文化財調査の追加に伴う増額
事業期間	H24～R2	H29～R11
事業内容	道路延長 1,900m 道路幅員 24.0m	道路延長 1,900m 道路幅員 24.0m

事業経緯

年 度	主 な 経 緯
H29	事業着手
H29～R1	測量調査・設計 地元調整・都市計画変更
R2	用地買収着手

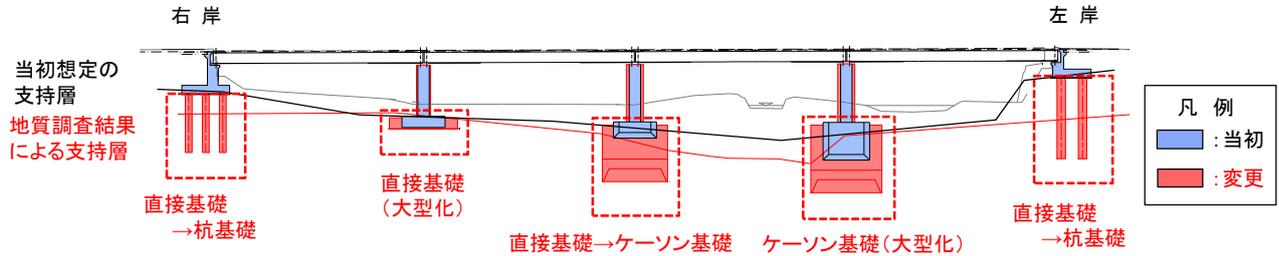
進捗状況

	全体計画	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	8,500百万円	697百万円 (8.2%)
用地買収	68,230m ²	0m ² (0%)
計画延長	1,900m	0m (0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

増額理由

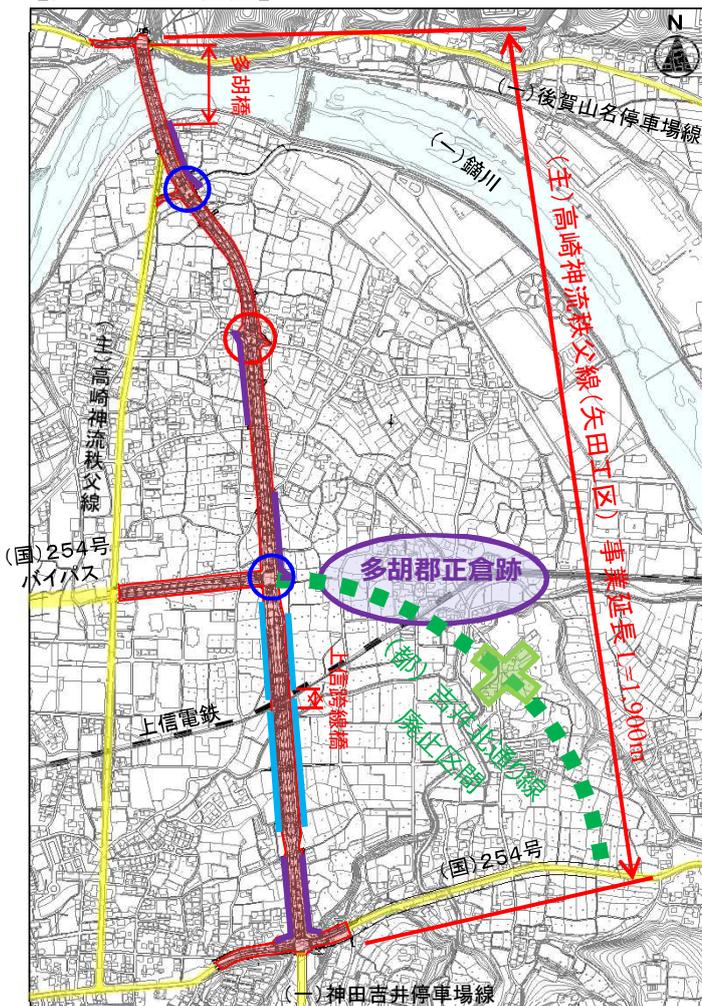
当初、近傍の地質調査の結果に基づき、多胡橋の橋台基礎を直接基礎、橋脚基礎を直接基礎2基・ケーソン基礎1基として計画していたが、橋台・橋脚施工箇所にて地質調査を行った結果、想定より支持層が深く、基礎形状を変更する必要が生じた。このため、橋台基礎を杭基礎、橋脚基礎を直接基礎1基・ケーソン基礎2基へ変更するのに要する+8.1億円の工事費の増額が生じた。



【多胡橋パース図】



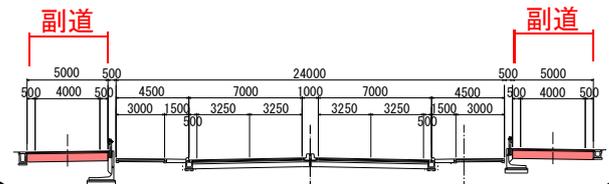
【矢田工区平面図】



【凡例】
— : 副道 当初計画区間 ○ : 交差点 当初計画箇所
— : 副道 追加区間 ○ : 交差点 追加箇所

増額理由

高崎市および地域住民との協議の結果、地域の分断を防ぐため、交差点および交差点付近における副道の追加に要する+1.9億円の工事費の増額が生じた。



増額理由

埋蔵文化財確認調査の結果、事業箇所周辺に多胡碑関連の重要遺跡があることが判明した。このため、事業区間の重点的な調査の必要が生じ、調査に要する+9.0億円の測量試験費の増額が生じた。



【凡例】
○ : 事業箇所周辺の重要遺跡
○ : 現地保存・特別史跡指定を目指す重要遺跡

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- 現道の交通量は、平成22年度13,336台／日、平成27年度12,131台／日と、ほぼ変わらない状況であり、また渋滞長(岩崎交差点)も平成26年度L=1,010m、平成30年度L=1,020mと変化ないことから、本事業の必要性は依然として高い。



現道区間（渋滞状況）



現道区間（沿線の住宅・店舗連担状況）



現道区間（幅員狭小状況）

4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- 現道の混雑が著しく(渋滞長L=1,020m(H30))、交通容量が不足していることから、現道より車線数を増加(2車線→4車線)する必要があるが、現道については、沿道に住宅や店舗が連担しており、現道拡幅に比べバイパス整備の方が地域住民の影響や、車両通行の速達性、コスト面等で有利なため、本手法は適切である。
- また、本バイパス計画とすることで、吉井ICから多胡橋までの間がほぼ直線区間で結ばれることからルート選定についても妥当である。

費用便益分析

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析 マニュアル 国土交通省 道路局、 都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析 マニュアル 国土交通省 道路局、都市局 平成30年2月			
基準年		平成23年		令和2年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	4,475,000	96.4%	6,645,000	98.3%	事業費の増加による	
	維持管理費	169,000	3.6%	115,000	1.7%		
費用合計 (C)		4,644,000		6,760,000			
便益 (千円)	走行時間短縮 便益	10,622,000	82.3%	14,167,000	97.8%	評価対象期間及び原単位 の見直しによる	
	交通事故減少 便益	615,000	4.8%	87,000	0.6%		
	走行経費減少 便益	1,669,000	12.9%	236,000	1.6%		
便益合計 (B)		12,906,000		14,490,000			
費用対効果分析 (B/C)		2.78		2.14			

